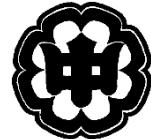




池島魂



教育目標 「愛顔でより良い未来に向かって努力する子供の育成」 文責：校長

たしゃ たいわ きょうどう
他者との対話と協働で

よ かげん さぐ
いいかげん(良い加減) を探る

みかた かんが かた きた
そのために 「見方・考え方」を鍛える

「いいかげんな人だ」などと
「いいかげん」を「無責任な」「中途半端」などと
否定的な意味で用いることがある。

本来は「良い加減」と書き、「ちょうどよい状態」と
肯定的な意味をもつていて、
「いいかげん」を「無責任な」「中途半端」などと
否定的な意味で用いることがある。

コロナ感染が広がる以前は、私たちの生活がこのように
は、様々な問題に直面している。これからもである。
このようにこれまで経験したことのない問題に対し
て、ただ一つ正解を求めることは難しい。

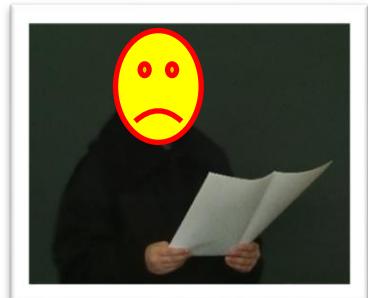
私たちにとっての正解は、他者と対話し協働しながら
「い(良)いかげん(加減)」を探り出すことである。
そのために生きる力に直結する「ものの見方・考え方」を身に付ける努力が欠かせない。

新型コロナウイルス感染が広がったこともあり、私たちの生活が変わってきたように、これからは予測が困難な時代だと言われています。私たちも子供たちもそのような時代を生きていきます。

学校では、教科の授業や様々な活動を通して、

「見方・考え方（ものごとを捉える視点や考え方）」を働きながら、

- 1 知識を関連付けて深く理解したり、
- 2 情報を精査して考えを形成したり、
- 3 問題を見いだして解決策を考えたり、
- 4 思いや考えを基に想像したりする



など過程を重視した学習を進めています。

つまり、1～4を意識しながら学習を進めていくことで、

「見方・考え方」が鍛えられるということです。

「池島魂NO. 120」で紹介いたしましたが、来年度の公立高校入試は、探究的な学びの要素が取り入れられています。各教科のテストの中には「文章やグラフから読みとったことを指定された文言を遣いながら、考察する」などの問題が出題されることが予想されます。まさに「見方・考え方」が試されているということになります。

ですから、日ごろから知識をしっかりと習得しながら、それを活かして考え、課題に対して自分の言葉で考察できる練習をする必要があるのです。

「見方・考え方」は、これからの社会を生きる力、自分で生き抜いていく力に直結しています。

- どんな問題が解けてどんな問題が解けないのか？
- 自分は日頃からどんな問題を苦手としているのか？
- 自分にはどんな課題があるのか？



をしっかりと自覚して、授業や家庭学習、部活動等、普段の生活の中の取組方（言葉や行動、活動）をアップデートしていきましょう。

